

婦人労働組合とはどんなものか

我が國の労働者の總数の六割は婦人で、二割は子供で残る三割が男子である、それで日本の産業界は婦人で立つてゐるといふてもよい。その多數の婦人労働者に組合も無く、故に婦人労働者の半数しかない男子の労働者が（全部組合に入つてはゐないが一部）組合を作つて團結してゐる、男子は八時間制を實施してゐるのに何の必要で女が十二時間働くのか。同じ仕事で同じ出来高であるのに何のために安い賃金で働く必要があるのか。一割か二割しか配當し得ない今の時代に女を多く使ふ筋絛が七割の配當してゐる、之だけ女を資本家が安い賃金で酷使してゐるのである、男の労働者が組合を造り團結すれば、するだけ、婦人と子供の労働をするものが縮む、機械が發明されたら、されるだけ又痛むて行く、實に間違ふた、安心にたつたないの

茲に婦人労働組合を組織し、男子の組合と協力して、工場に居るものも、自分は働かないでも働く夫を持つてゐるもの、子供を働かしてゐる人に現在の儘にしてゐると、如何なるか？といふ事を述べようと思ふた人は自分は元より、知つて人に働めて、組合に入會して貰ふさい。

皆さんが、よく御承知でもありませんが、市場魚屋、八百屋に買物に行かれた時、その日に依り高い日と安い日とがある、それはその日に魚や青物を市場に多く来るの日と少ない日と原因があるので、多い時は安く、少ない時は高いの事をまたない、その日は安くとも翌日は高い事もある、しかしよく考へて戴きたい、品物が少い時は高くて早く賣れ儲けもある、多い時は安く賣つて労働も苦心も多くてその割に儲けがない、骨ばかり折れる、何れを苦んで薄利多賣する必要はあるか？と考へ、今の世の中では凡ての生産品は少く、賣り安い様に、何日多く、不足である、多く生産する事は斷じてない。若し造つても倉庫に取めて必要に応じて賣る今の制度では、如何なる機械が發明されても、如何なる技術者が出て来ても決して、物價は下落せず、一枚の存物一足の下駄に對して儲けを取るの、物價の高いのは當然である、利に敏い資本家は之を一般に利用して金儲けをする、又資本家に儲けさせるといふ事は利用される者がある事にならう、日本の物價が世界中で一番高いだけ未だ日本の婦人が覺悟しない事になる、婦人の覺悟しない事は物價迄に及ぼすのである。

今の産業界で、女でなければ出来ないと云ふ仕事は一つもない、御覧なさい、勤続でも、構守工場でも、ゴム工場でも、始めは皆男がやつてゐたのを、女は賃金が安いとか、従順である（だまし易いので）資本家に都合がよいから使ふので、女でなければ出来ないと云ふ譯ではない。

機械が發明され、改良されるにつれて、動力が技術があまり要せないので、至極簡易になつて敢て熟練した高給職工や、努力を持った成年職工を備はずとも、女や子供のやうな、繊弱者の世の中では金さへ持つてゐると立派な人であり、人格者である如く、教育家は教育し、宗教家は持ち上げるので、なんでも金持になりたいといふ者が多いので（今の制度では、いくら働

いても決して金持になれない事を知らず）金儲けのみを考へ知らずの裡に地獄の如き工場に働く様になるのである。

従来男は子供のために外に出て働いて一家を支へ女は家にあつて、子供を養育し夫を慰め、一家團圓の樂しみを送つて、例へ仕事をして一厘の報酬を得なかつたが、前に申した通り、機械が發明されてより、女を使用する様になり幾許かの金儲けが出来て嫁入道具の一つも、生活費のたしに、工場に出て働く様になるのであるがよく考へて戴きたいのは、このことである、女は男より賃金は安い、その割に仕事出来高に變りはない、仕事に依つては、女の方が、多く出来るものもある、女は嫁入道具を買ひたい家家はしてゐる時、女は嫁入道具を買ひたい生活費のたしに働かざるを得ないので願つたり叶ふたりで、男に比し賃金は安い、よく盲従して使ひ易い、その上文句を云はないので、女を使ふと、昨日迄男のした仕事でも女のやる、男の仕事も女が、追々替ひ、男は働く仕事が無く、有つても賃金が安い、それで、一般に男の賃金が下がり男一人で働いて、一家を養ふて来たものが妻も子も働かし、自分が働かず妻と子を働かして日糊を凌がなくてはならん様になつた。

男は妻女は役（結婚の如く）働いて果して、夫婦として、家族としての樂しみ子供の養育はさうなるか、妙師の女工の將來はさうなるかを考へる時、交通私通墮胎となり、更に重大な罪惡不道徳を生む原因となるのである、見よ可憐嫁入前の大事の體を淫蕩に持崩し、終生身を誤るもの、苟しくも身を教育界に置きながら、女生徒を盗み、校長は女教員を盗むのであるから腐敗し墮落した工場内に於て夫妻である否との別なく監督が女工を盗んで起つた悲劇慘劇の實例は数限りなく、家庭は紊亂し家庭生活は破根されるのである、婦人が働く様になつて以來起る、弊害は一々列挙するに限りがない。

更に申します、労働をせすとも労働者の妻となつてゐる人よ、景氣のよい時でさへ、食ふや食はずに居り乍ら一朝不景氣が来た時一大苦痛は失業問題である、（失業者の出る原因は、別に述べるとして）失業者の多く出る時は、一般何處へ行つても口がなく、探すのに非常な苦心を要して、例へあつても、土地の關係上インフレで行く事も出来ず、自分の手出た種類の職業以外の仕事に就く事は困難であり外の仕事に従事するにしても、賃金が安い、長く失業して居れば餓死するか、密するか、しかたがない、かかる時に夫と共に、苦しむ故に妻として考へる必要がある。

以上述べた如く、資本家が暴挙を行ひ、非人道的の行爲は労働者にもその家庭にも物價にも總て害する兇か惡魔である、正義人はどこに總て害する兇か惡魔である、女や子供が働き強壯のあるか、見よ、強い、女や子供が働き強壯の男子が遊んでゐる、其の報酬を日視し難く不運な人々のため自分のため、全力を注がねばならん。

最早労働組合に關して云ふ必要もないが、労働問題の第一歩として妻を夫の許に、子を母の許に返して、一家の團圓の樂を得、尚進んで資本主義の破壊に力を入れるため、團結する様重ねて勸める。